

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	モニタリングとカンファレンス、計画作成が運動しているか。計画書の項目が多い為、実際のケアと計画作成との間に時間がかかり過ぎているのではないか。	計画書の形式を見直し、計画作成とケアの実施、記録を、より利用者のその時々の状態に合わせて行うことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・目標と、計画書の項目をしぼって、見直しをしやすくする。 ・計画書に沿ったケアと記録を職員に周知し、担当者が取りまとめしやすくする。 ・計画書の改訂に合わせて、記録用紙により具体的なケアの項目を入れるようにする。 	3ヶ月
2	35	定期的に防災訓練を実施しているが、実際の勤務体制での災害を想定した訓練になっていない(夜間や出退勤の状況、連絡方法含め)。防災訓練への参加が特定の職員のみになっている(全員が参加できていない)。	職員全員が、防災設備や避難先、避難方法などを知っている状態になる、緊急時に勤務職員が対応できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災設備についてと避難場所、避難経路の把握を改めて周知徹底する。 ・災害の種類と規模に応じた対策を再検討し、マニュアル化する過程に職員も参加する。 ・地域の防災訓練にも今まで以上に参加できるようにし、顔見知りを増やすようにする。 	8ヶ月
3	6	身体拘束について、一般的な知識や表面上の理解にとどまっていないか。現在のケアで、身体拘束に当たると考えられることはまったくないかどうか見直しをする必要はないか。	「身体拘束廃止」の目的と意味を、職員全員がより深く理解し、継続して見直しながらケアに活かせるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束廃止」に関する研修を継続して実施する。 ・自分たちのケアについて、「身体拘束」や「虐待」と見られることがないか、定期的に意見交換、見直しをしていく。 	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。